（平成２９年１２月１８日）　金属課ヒアリング提出資料　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成29年５月末	平成29年８月末	平成29年11月末見通し	平成30年２月末見通し
＋８０千トン ［　２２５３〃　］ （１０３．７%）	－１７千トン ［　２２３６〃　］ （９９．２%）	－６７千トン ［　２１６９〃　］ （９７．０%）	＋５千トン ［　２１７４　〃　］ （１００．２%）
２２３８千ﾄﾝ (99.3)	２２７６千ﾄﾝ (101.8)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成29年６月末	平成29年９月末	平成29年12月末見通し	平成30年３月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 77,900 円で前年比+6,500 円、前期比では+1,000 円。市場環境は昨年より若干好転していたが、市況に一服感が出ていた。それを反映してか価格転嫁が進捗せず、メーカーの更なる値上げに晒されていた。需要動向には底堅いものがあったが、分野別、品種別また地域によって温度差があり、順調な回復とは言えない状況であり、末端需要は精彩を欠く動きだった。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 78,900 円で前年比+8,100 円、前期比では+1,000 円。価格上昇、需要漸増の基調が期末になって明らかになった。問題は値上げ転嫁未達が解消せず、更なる値上げ攻勢に晒される状況にあったことだった。それは粗利の低下を招き中身のない商売を強いられることでもある。これまで採算は水面上にあったが、沈下する懸念も孕み秋口を迎えていた。	期後半になり、様変わりの市場動向となった。背景にはメーカー主導の値上げにより市況が動き出し、需要も製造、建設の両分野とも堅調を持続している点にあった。需給はタイト化し、鋼板、形鋼、コラムなどが品薄となり、なかには歯抜けサイズも出ている。そのような好況感にあっても、値上げ転嫁の足取りは重く、流通はこの問題解消に注力せざるを得ない。今後も値上げ指向は継続されるため、粗利の低下が懸念される。	前期の基調を引き継ぎ良好な市場環境が続くだろう。在庫に歯抜けが散見され、メーカーからの入荷は遅れがちとなり、タイト感が強まるが、それ故の価格上昇と考えられるより、数次にわたるメーカー値上げの後追いで、流通での販価改定がなされ、それを反映して市況は強含みという構図であろう。需要は堅調、建築、土木はさらに物件増加となろう。ファブ、ゼネコンが手一杯なので、期待したほど荷は動かないかもしれない。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流動調査１０月結果によれば、在庫は前月比－1.4%だが。前年比＋14.3%と増加している。薄板３品在庫も１０月末約４１１万トンで低い水準ではない。だが、販売が回復途上にあり、メーカーから入荷が遅れがちになっている状況にあってタイト感が生まれている。この状況は今後も続くため、今ある在庫を大事に売っていく姿勢で臨むことになろう。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）メーカーの採算重視の姿勢は揺るぎないため、流通も価格転嫁に全力で取り組んでいる。
自動車、建機の好調に加え、目立った大型物件はないものの、建築土木も中小案件を中心に動きが出てきた。堅調な需要に加え、メーカーの納期遅れもあり、需給のタイト感が強まっている。来期も、需要動向については各業種とも上向いてくると思われるが、関西では製造業の景気の上向き感が末端まで届いていないのが実情。末端まで実感できる景気対策を望む。

（愛知）１０月から１２月にかけて荷動きは順調。自動車関係は変わらず好調を維持していて、２月までは続く。梱包においては大型物件に一服感があるが、自動車の生産好調を受けて飛び込みの仕事が多くあり、荷動き低下までにはいたっていない。鉄骨は中小案件が活発にでており好調に推移している。工作機械、エレベーターは特に好調。産機、建機も出ている。年末に向けての土木の動きが鈍い以外はおおむね好調。メーカー値上げが急で価格転嫁が間に合わないことと、H形鋼、一般形鋼、コラム及び板関係のメーカーデリバリーの遅れ（コイル系に関しては供給減）で、市中に歯抜けもみられ、かなりタイトな点が懸念される。